

女子の職分

單念士

近來女子の教育と云ふものに就きましては教育者は日
日頭を痛めて居ります尤も中には反對を云ふ人もなき
にしもあらずでありますが實際上に於ては教育者のみ
ならず世人も次第に女子教育の仕事を進めて之に要す
る施設をなしつゝあることは事實であります之れは女
子と雖も男子と同じで數多の知識を授けられ又其の人
となりを訓練せらるゝとが必要なりと云ふ原則には誰
人も異論なきからであります又昔は男子と女子とは性
質の異なるが如く心性の作用も異なるものなれば其教育も
仕事も別でなければならぬと云ふてありましたが之れ
も今日では男女に係らず普通一般の教育を受けねばな
らぬと云ふことゝ女子の心性と雖も男子と同じく或程
度までの教育を受け得るものなりと云ふ原則には誰人

も異論なきに至りました又昔は女子の醫者、辯護人、圖
案者、説教者、學校教師、會社員、事務員其他特殊の職業
を取るものがありませんでしたが今日では此等の業務
に従事せる女子もでき斯々の仕事は到底女子では出來
ぬと云ふものは甚だ少くなりましたつまり女子と云ふ
ものは必ずしも従來の如く引込思案のみを取らずして
身分相當の職分を盡す爲めに身分相當の教育を受くべ
しと云ふ原則には誰人も異存なきことに至りました
然るに以上の原則を實現するには如何なる方法による
べきかと云ふことは誠に六ヶしき問題であります然れ
ども女子教育の起りと申すものは女子に必要特殊なる
知識と訓練とを與ふべしと云ふことより起りましたる
ものでありますから其方針も明なる次第でありまして
我國の女子教育も始めは必要と云ふことを驕ぎ立てた
様でありました然るに近年に至りましては其方針が少

しく見當違の方向に傾きたる様に思はれます即ち女子の教育は女子を裝飾する爲めに行ふものなりと云ふ様に過らるゝに至りそゝであります従て教育の方法も次第々々に此過りの渦中に陥りそゝになり始めましたかと思はれます即ち其教育といふものは身分と云ふことを考へずして猥りに社會上にて最も仕合せの位置にある女子に必要な事項を授くるかの様な弊があります即ち富人、暇ある人働かぬでも需要供給が思ふ通りになる人が氣慰みになすべき様なことを教ふる弊があります之も其の身分相當の人が學ぶならば宜しきことなるも之より劣りたる身分の女子が斯かることに多くの日時を費して居ると云ふことは誣ふべからざる事實でありますよ一此に於てか女子の職分如何と云ふ問題を攻究するの必要が起るのであります

女子と雖も何事をかなさざるべからずと云ふことは眞

理であります然るに近來の教育の状態によれば男子の教育は多く實用的方面に向けられ女子の教育は多くは裝飾的方面に向けられ殊に訓練の如きは男子には世に立つて仕事をなすに必要な品性を與ふることに注意せらるゝにも係らず女子には此點に缺くる所あるのみならず稍ともすれば見ばいを程能くすると云ふが如き表面的のものに陥るが如きことなきにしもあらずであります之れ等は共に教育方法上の一の過りと思はれます

(未完)



研究

臺灣に於ける古談

古談里諺の、兒童將來に對して感化するの勢力ある